

yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 1 1 8
平成 20 年 2 月 4 日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

パソコンとの会話

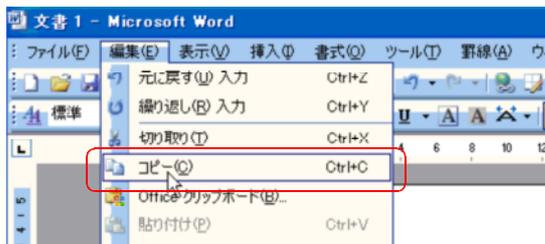


図 1



図 2

初めの二つの図は、Word 2003 の画面です。コピーするとき、たとえば、メニューの「編集」から「コピー」を選びます(図1)が、このとき、「コピー」という文字の先頭にマークがあります。すぐ次には、「(C)」とついています。行の終わりには、「Ctrl+C」と書かれています。これらは、何を意味しているのでしょうか。

初めのマークは、図2にあるマークと同じです。この、小さいマークのある場所を、「ツールバー」といいます。「工具箱」ですね。よく使う機能を、小さいマーク(アイコンといいます)で表して、ワンクリックで起動できるように並べたものです。

「(C)」は、このサブメニュー(プルダウンメニュー)が表示されていれば、キーボードのCキーを押せばコピーですよ、という意味です。

マウスでサブメニューを出してあれば、そのままマウスでこれをクリックすればいいのですが、サブメニューをキーボードを使って、Altキー Eキー(「編集」)と操作して表示したときに、続けてキー操作で「コピー」する場合に使うことを考えています。

次のCtrl+Cですが、これは「ショートカットキー」と言って、メニューやツールバーを使わず、いきなり「コピー」できるやり方です。これは、図3 (Word 2007)で、マウスを「コピー」アイコンに合わせたときにも表示されます。

なぜ、ショートカットキーがメニューに表示されているかと言えば、こちらが速い(近道)ので、覚えて使ってください、という意味があります。

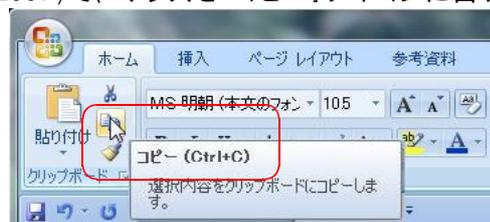


図 3

このように、画面では、よりよい使い勝手になるように、便利な「記号」などが表示されています。これらの「記号」を日常的に使うようになると、コンピュータが「思うように」動くようになります。また、これらは、アプリケーションを超えて共通のものも多いので、他の作業でも便利に使えることになります。

コンピュータスキルの3本柱の一つ、「パソコンとの会話」には、こういった画面からの情報を見落とさない、ということも含まれています。是非覚えて、使ってみて、「無駄」を「便利」に近づけてみてください。